

# 歯科医師の勤務実態等の調査研究 結果概要

平成30年

厚生労働科学特別研究

「歯科医師の勤務実態等の調査」研究班

厚生労働省医政局

# 「歯科医師の勤務実態等の調査研究」の概要

## 目的

歯科の特性を考慮した上で、歯科医師調査と医療施設を行い、歯科医師の勤務実態を把握するためのタイムスタディ、他職種との連携や今後のキャリアパス、将来の勤務地や業務内容に関する意向等を把握し、歯科医師の勤務実態を明らかにする。

## 研究班

○三浦 宏子	国立保健医療科学院 国際協力研究部 部長
尾崎 哲則	日本大学 歯学部 教授
井田 有亮	東京大学大学院 医学系研究科 特任講師
児玉 知子	国立保健医療科学院 国際協力研究部 上席主任研究官

○研究代表者

## 調査内容

- ①年齢、性別、勤続年数、勤続地、専門領域等の基本属性
- ②勤務実態を詳細に把握するためのタイムスタディに関する項目
- ③他職種との役割分担・連携体制やキャリアパスに関する項目 等

## 調査対象

全国の医療施設及び当該医療施設に勤務する歯科医師を調査対象とする。

病院歯科・歯科病院及び歯科診療所における歯科医師の勤務実態等調査を実施。

- ・歯科医師調査票（約28,500名）
  - 病院歯科\*<sup>1</sup>:約6,500名を調査対象とすることを目標として配布
  - 歯科診療所\*<sup>2</sup>:約22,000名を調査対象とすることを目標として配布
- ・歯科医療施設調査票（約19,000施設）
  - 病院歯科:約1,700施設に配布
  - 歯科診療所:約17,000施設に配布

※1病院歯科については、歯学部を有する医育機関を除き全数調査を実施。

歯学部を有する医育機関については抽出調査を実施。

※2歯科診療所については、全国の保険医療機関を対象に調査を実施。

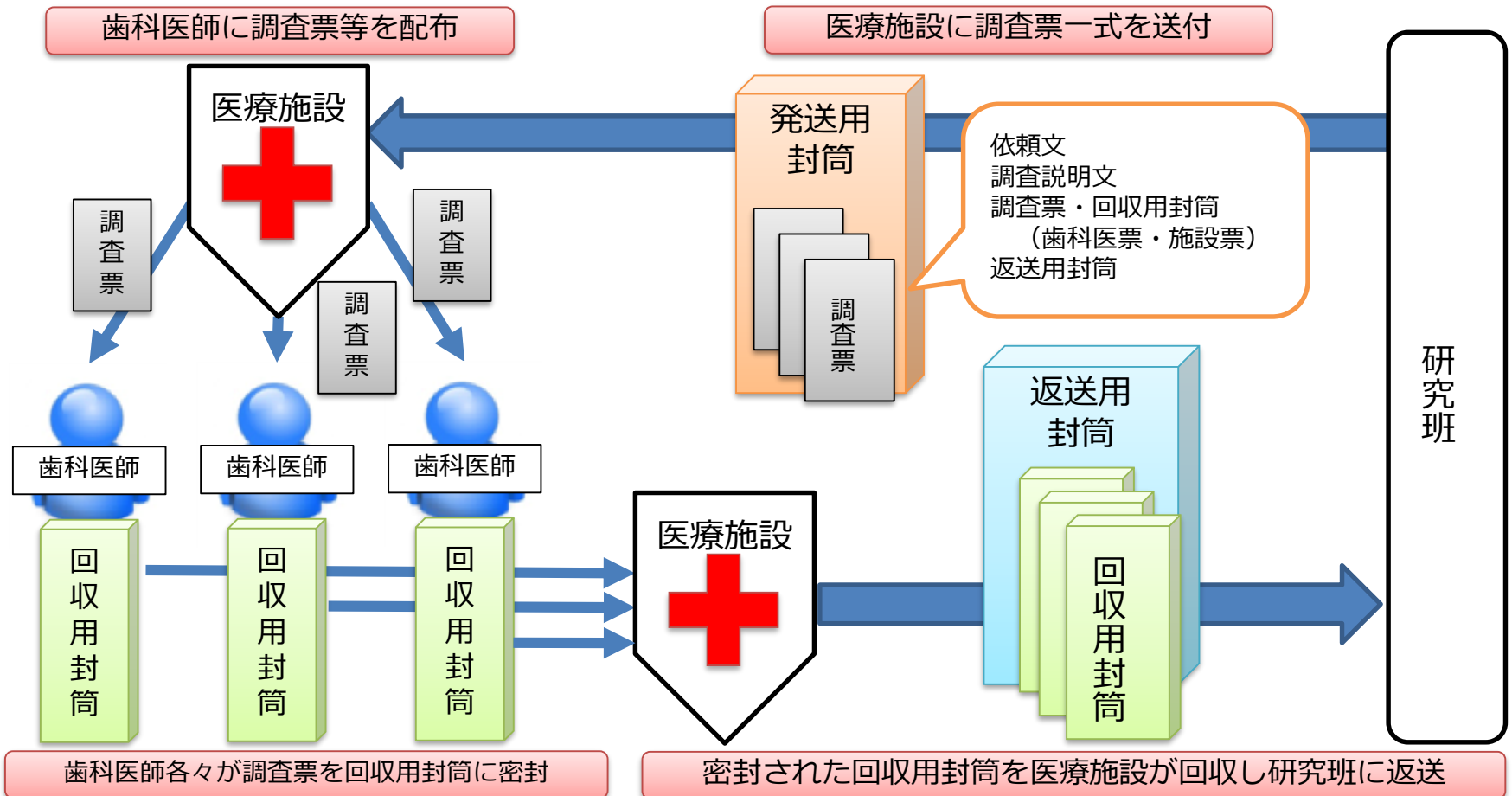
※歯学部を有する医育機関を除き、北海道並びに岡山県倉敷市真備町を除く。

## 調査対象日

平成30年11月15日（木曜日）～21日（水曜日）の1週間

# 配布・回収方法

- 医療施設に調査票と回収用封筒と送付用封筒を送付
- 歯科医師のプライバシーを保護するため、調査票と同時に個人用の回収用封筒を配布
- 調査票を歯科医師が回収用封筒に密封し、医療施設が回収
- 医療施設より一括して調査票を研究班に返送



# タイムスタディの調査方法

- 調査時期: 11月15日(木)~11月21日(水)の1週間
- 記録内容: 「院内診療」「訪問診療」「教育」「研究・自己研修」「会議・管理業務」の各時間についての記録

## 《記入例》

○ 調査日が「勤務日」の場合

- ・院内診療 : 8:30-10:30
- ・訪問診療 : 14:30-16:30
- ・教育 : 10:30-12:00
- ・研究・自己研修 : 18:30-19:30
- ・会議管理業務 : 13:00-14:30

休憩(12:00-13:00)は矢印を記入しない

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	24:00	2:00	4:00	6:00
(勤務日)・休日	院内診療			←→										
	訪問診療						←→							
	教育			←→										
	研究・自己研修							←→						
	会議・管理業務等					←→								

## 回収状況

### ○歯科医療施設調査票

	発送数	回収数	割合
病院	1,632	480	29.4%
歯科診療所	17,000	3,782	22.2%

(参考)

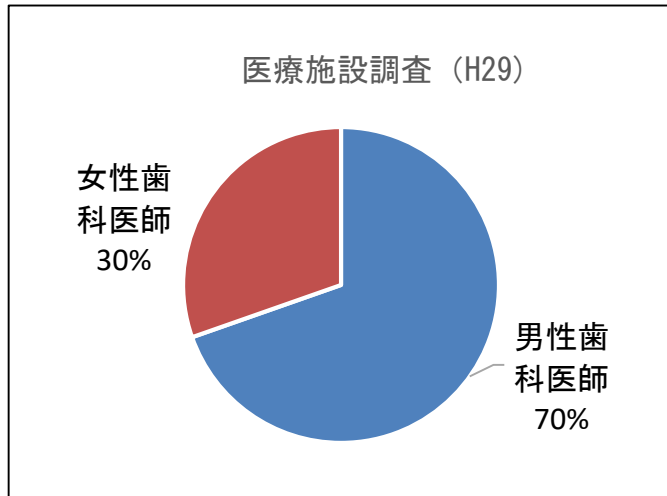
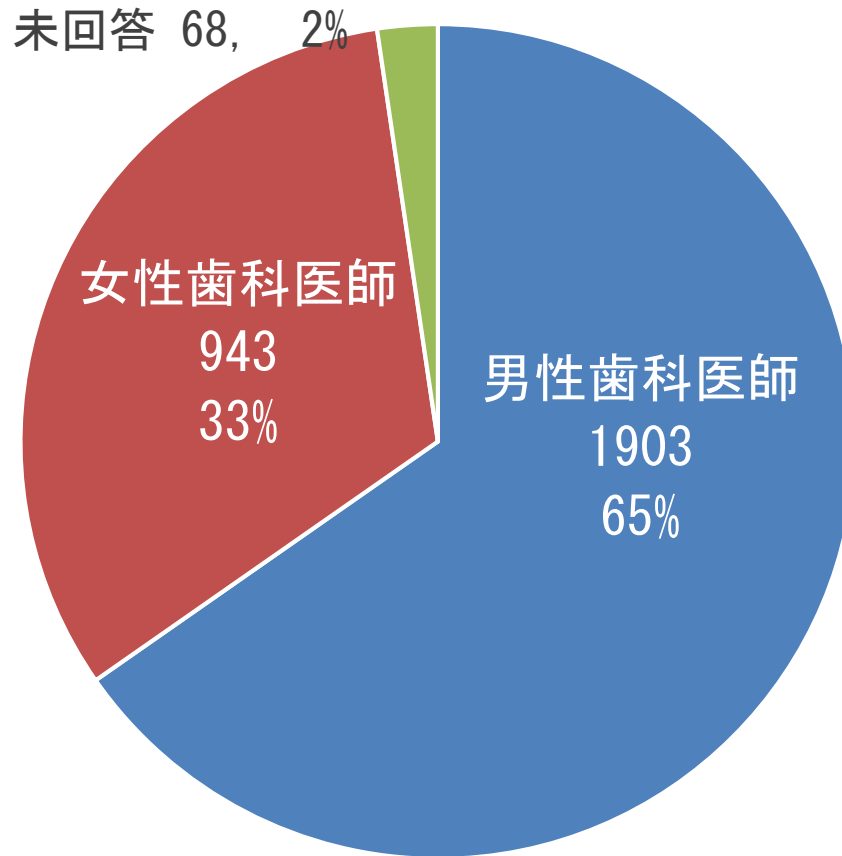
### ○歯科医師調査票

- ・ 病院歯科 2,914通回収
- ・ 歯科診療所 5,365通回収

# 結果の概要①（回答者の性別）

○回答者の33%が女性歯科医師

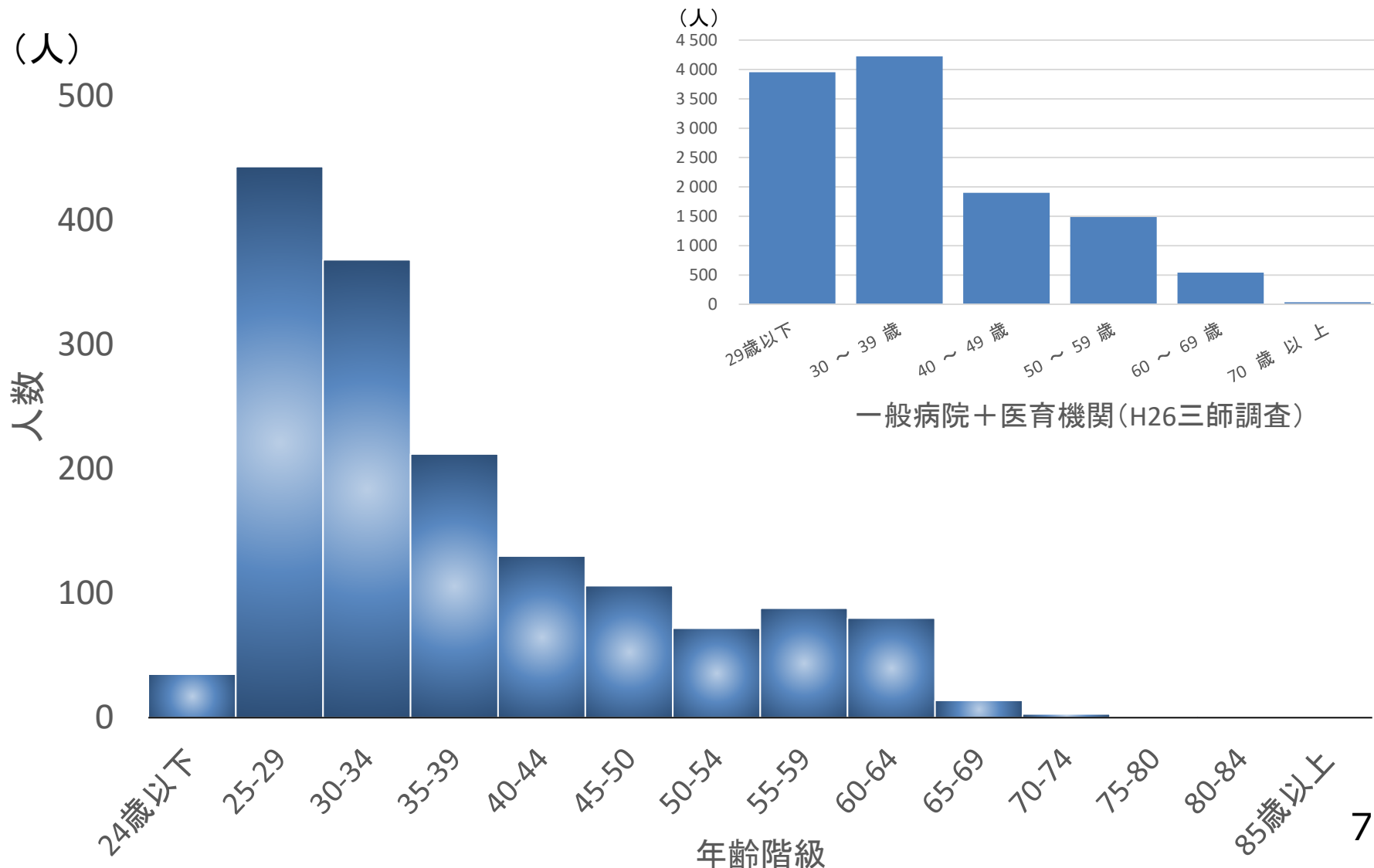
\* 医療施設調査における女性歯科医師割合とほぼ同等



H29年医療施設調査における  
病院の常勤換算歯科医師の割合

# 結果の概要（年齢分布）

○回答者の年齢分布は、三師調査の結果と比較して類似していた。年齢分布の観点からは、本調査の標本は歯科医師全体の代表性があると考えられる。





# 結果の概要（病院勤務歯科医師の週平均勤務時間\*）

\* 診療および診療外（教育、研究・自己研修、会議管理業を含む）

○病院常勤歯科医師の勤務時間は30代をピークに減少傾向になるとなるが、医育機関（男性）では40代で最も長くなり、病院勤務医師より長時間勤務となっている。

○20-30代の男性歯科医師および20代の女性歯科医師は非常勤でも常勤とほぼ同等の勤務時間である。

男性	勤務医（常勤）				勤務医（非常勤）			
	一般病院	n	医育機関	n	一般病院	n	医育機関	n
20代	54.6	70	49.5	108	56.1	24	52.7	90
30代	55.2	258	55.6	239	58.9	36	55.8	106
40代	51.7	221	59.8	136	48.6	12	44.5	3
50代	50.2	191	57.6	129	31.7	7	15.0	1
60代以上	47.0	94	52.4	73	29.6	14	21.8	2
計	52.2	834	55.5	685	50.4	93	53.7	202

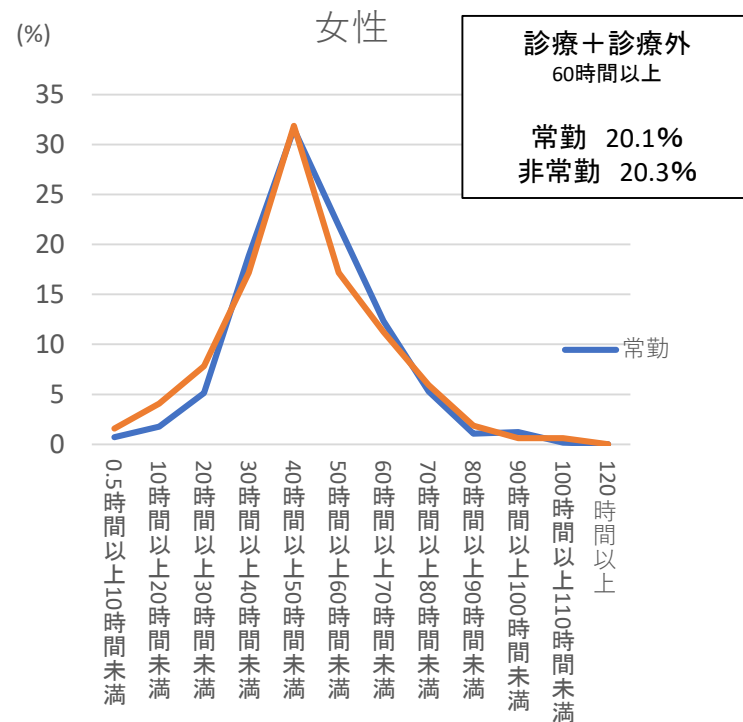
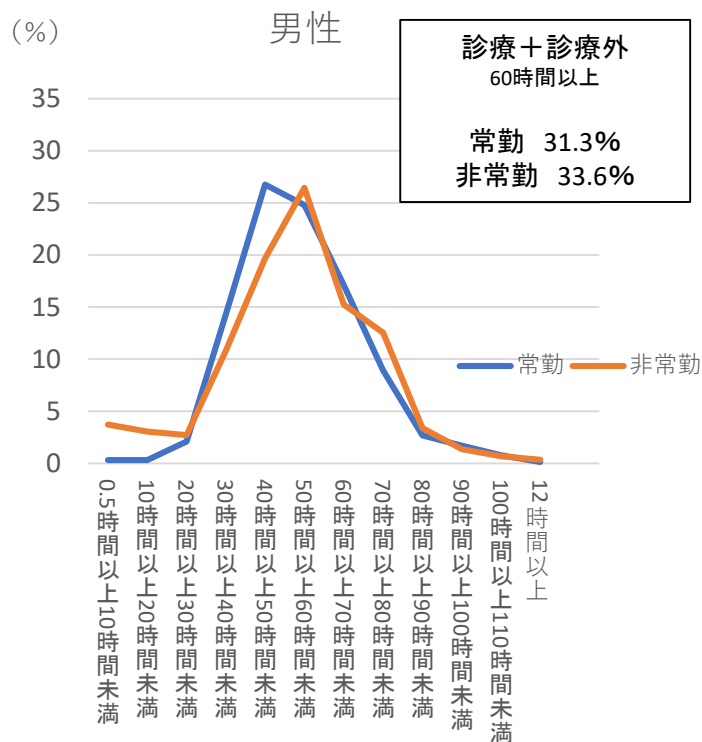
  

女性	勤務医（常勤）				勤務医（非常勤）			
	一般病院	n	医育機関	n	一般病院	n	医育機関	n
20代	52.8	68	43.1	93	57.4	20	50.5	126
30代	48.7	103	50.9	104	44.2	25	46.5	105
40代	45.4	70	48.4	67	29.2	9	43.0	20
50代	44.0	25	52.4	21	32.3	8	15.5	1
60代以上	48.5	6	59.1	7	17.0	4	24.5	2
計	48.4	272	48.1	292	43.1	66	47.9	254

# 結果の概要（勤務形態別週平均勤務時間\*の分布）

\* 診療および診療外（教育、研究・自己研修、会議管理業務を含む）

- 男性の常勤歯科医師のうち、勤務時間（「診療」＋「診療外」）が週60時間以上は31.3%、女性については20.1%である。
- 男性では常勤より非常勤歯科医師で長い傾向があり、女性はほぼ差がなく、わずかに短時間勤務の割合が多い。

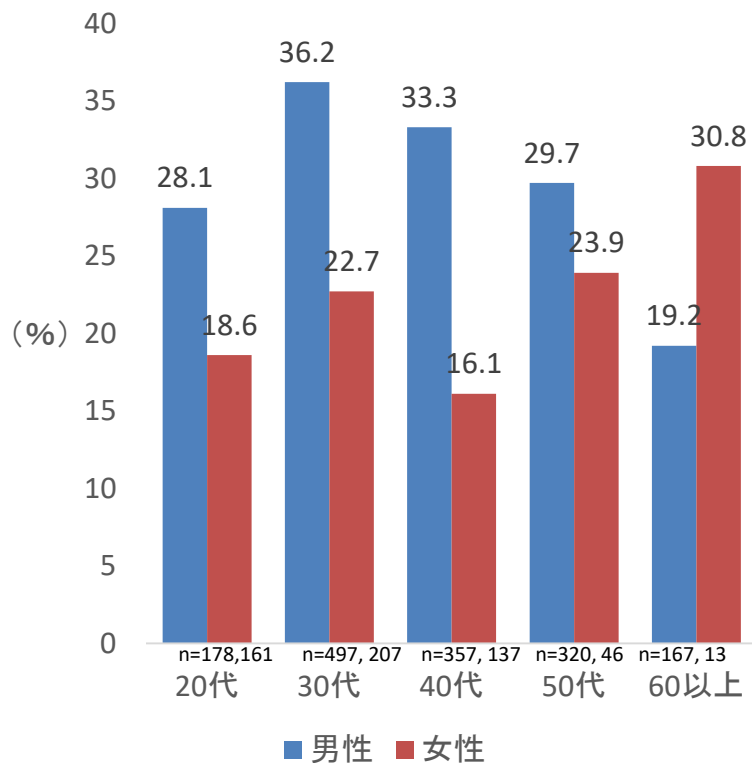


※診療外＝教育、研究・自己研修、会議管理業務を含む

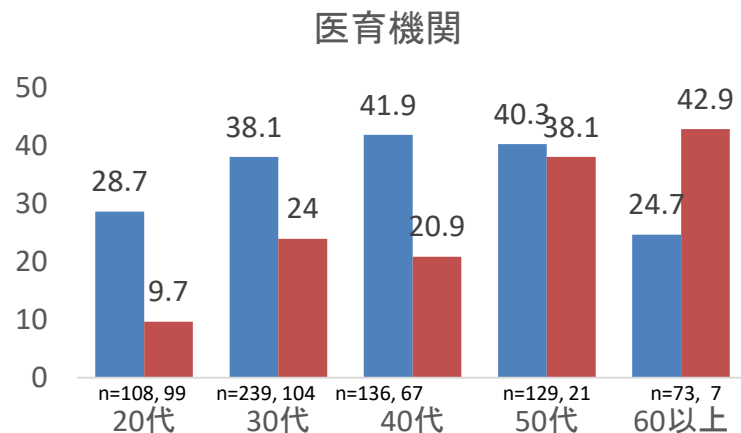
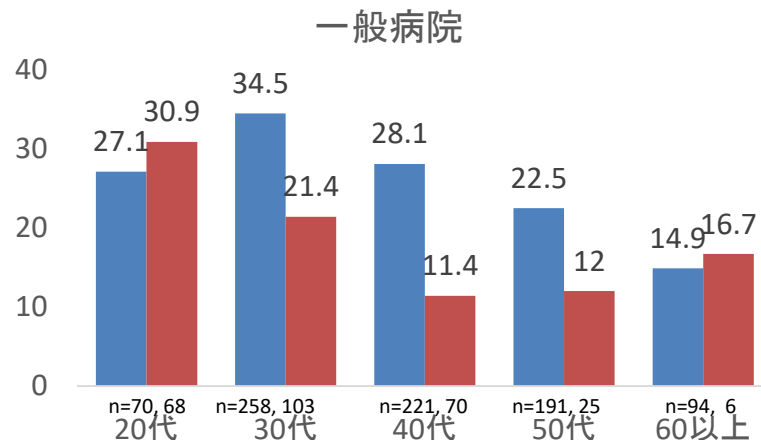
# 結果の概要（週勤務時間60時間以上の常勤歯科医師の割合）

- 勤務時間（診療時間＋すべての診療外時間＊）が60時間以上の常勤歯科医師の割合は男性では30代でピークとなっている。
- 一般病院では男性歯科医師は30代、女性歯科医師は20代にピークがみられている。
- 医育機関では男性歯科医師では40代で41.9%と最も割合が高く、女性歯科医師でも年代が上がるにつれて割合が増加する傾向がみられるが、母数が少ないためさらにデータを集積する必要がある。

\* 診療外（教育、研究・自己研修、会議管理業務を含む）

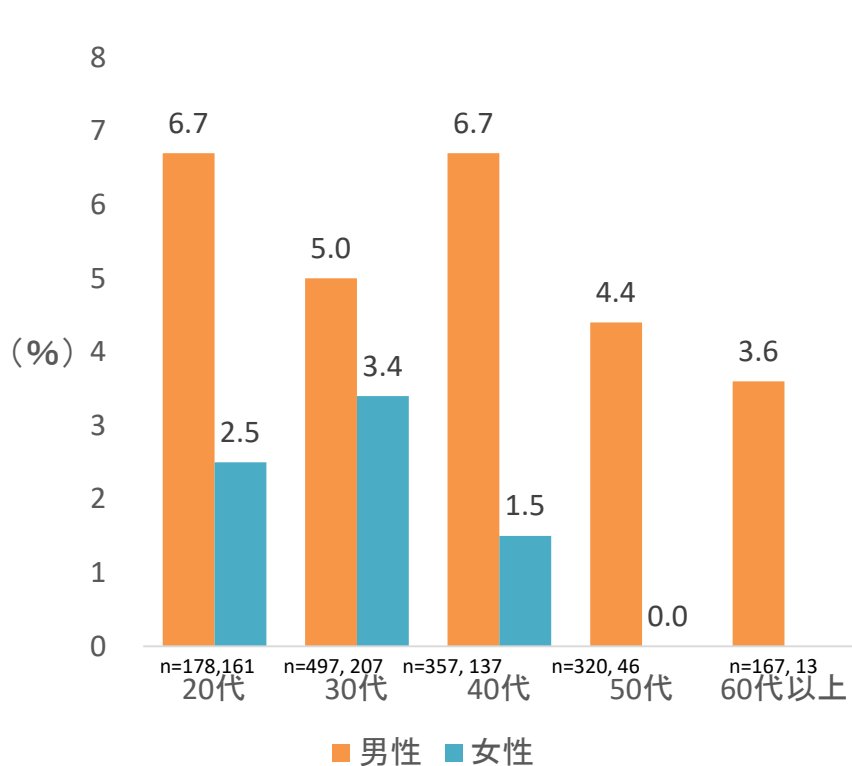


\* 診療外＝教育、研究・自己研修、会議管理業務を含む

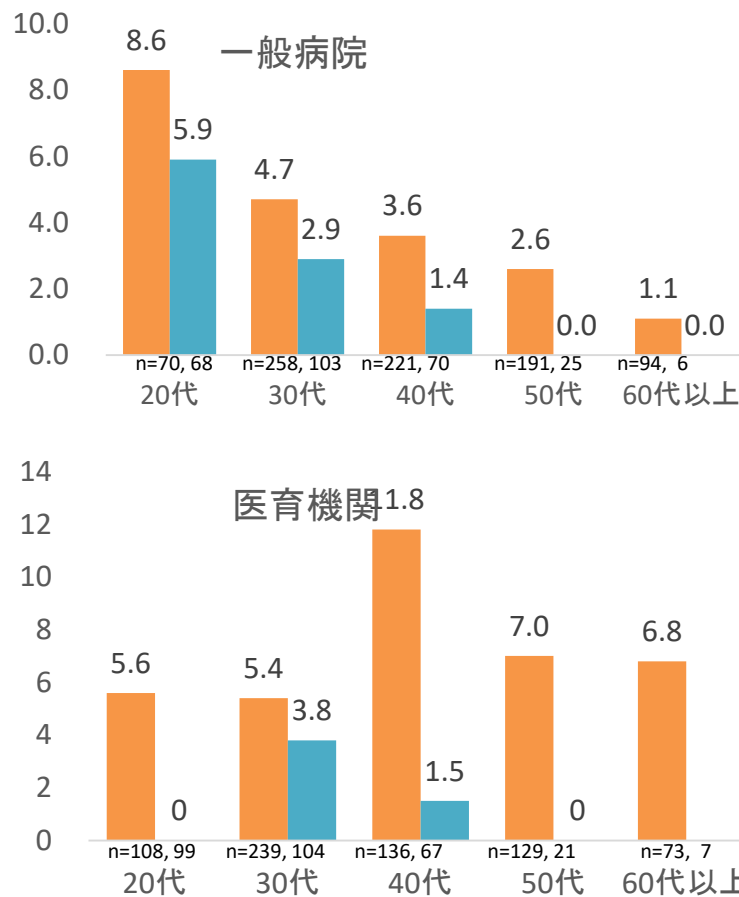


# 結果の概要（週勤務時間80時間以上の常勤歯科医師の割合）

- 勤務時間(診療時間+すべての診療外時間\*)が80時間以上の常勤歯科医師の割合は男性では20代、40代で6.7%であり、女性では30代で3.4%(60以上の女性は13人中1名)であった。
- 一般病院では男性歯科医師は男女とも年齢があがるにつれて割合が少なくなっているが、医育機関では40代男性歯科医師で11.8%と最も高くなっている。



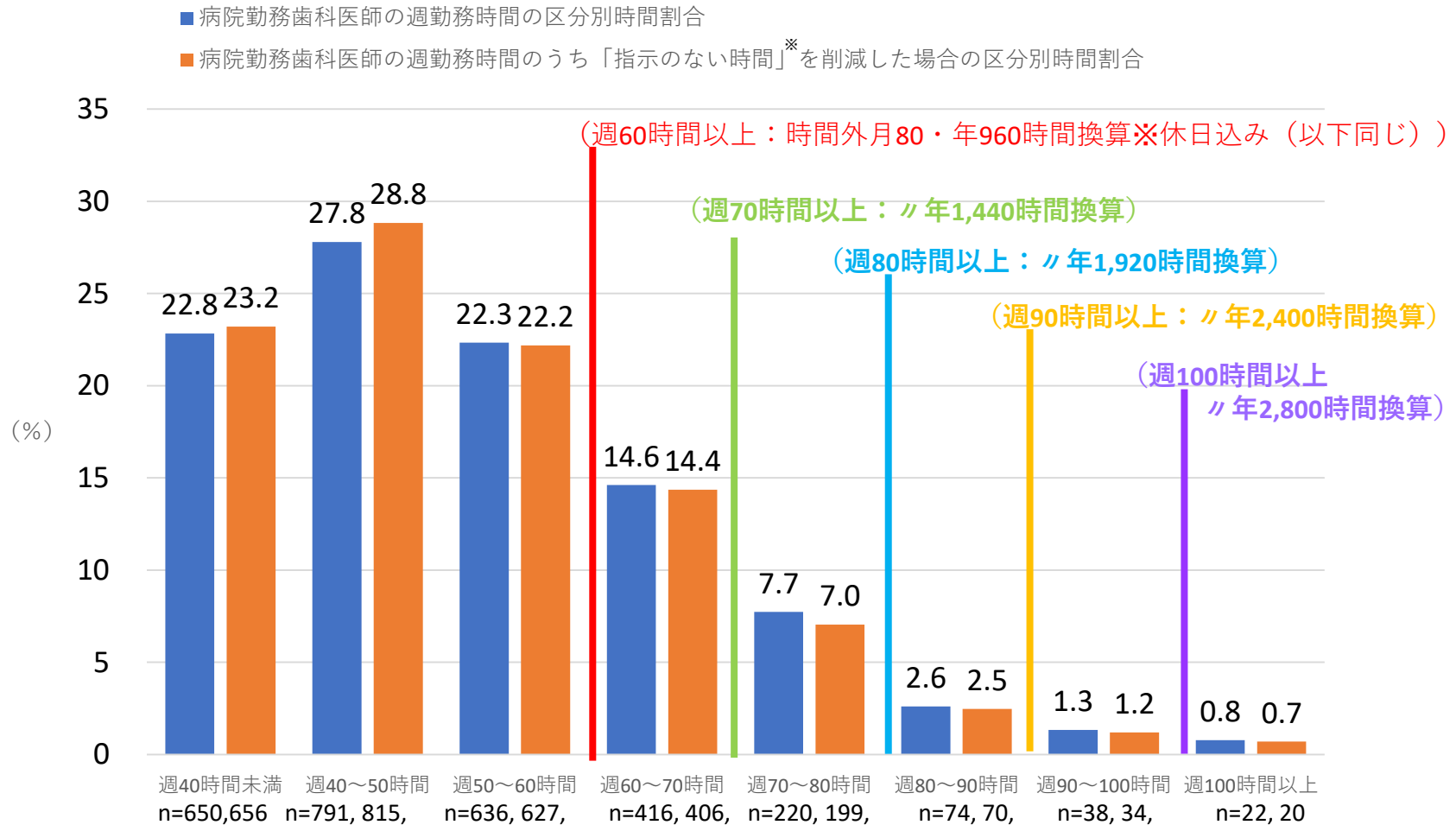
\* 診療外 = 教育、研究・自己研修、会議管理業務を含む



(60代女性は医育機関のみ。80時間以上勤務は14.3%であるが、n数少ないため図から除く)

# 結果の概要（病院勤務歯科医師の週勤務時間の区分別割合）

○ 病院勤務歯科医師における勤務時間ピークは週40～50時間（医師は週50～60時間）となっており、週60時間（時間外月80・年960時間換算）を超える割合は20%台である。



\*指示のない時間：「病院勤務医の勤務実態に関する調査研究」（平成29年度厚生労働行政推進調査事業費「病院勤務医の勤務実態に関する調査研究」研究班）の集計結果から、「診療外時間」（教育、研究、学習、研修等）における上司等からの指示（黙示的な指示を含む。）がない時間（調査票に「指示無」を記入）が4.4%であることを踏まえ、診療外時間（教育・研究・自己研修）より4.4%相当分を削減した上で、勤務時間（「診療時間」・「診療外時間」の合計）を集計。